

『高知家』 外科専門研修プログラム



『高知家』 外科専門研修プログラム委員会

2027 年度版

1. 『高知家』外科専門研修プログラムの概要

『高知家』外科専門研修プログラムは、高度な専門知識と技術・豊かな人間性を兼ね備えた外科専門医を高知県内で育成することを理念とする。つまり、本プログラムでは外科手技の習得に終始するのではなく、診断や治療適応の判断、周術期管理、合併症対策など外科医療の提供において必要な専門知識と技術を幅広く修得すること、そして、医療倫理、円滑なチーム医療などプロフェッショナルとしての姿勢や能力の獲得を目標とする。

高度化した外科治療には、患者や家族を中心に、多職種が専門的な立場から医療を展開するチーム医療が不可欠である。そして、患者の高齢化、基礎疾患を伴う患者の増加などにより、繊細で注意深い医療の提供が必要となる。そのような時代における外科専門医は、自らの専門領域とともに、幅広い領域に対する知識と理解を持ち、継続的に学習する姿勢が必要であり、チームの一員として、時にはリーダーとして能力を発揮することが期待される。『高知家』外科専門研修プログラムでは、そのような社会や医療現場の要請に応えるべく、県内全域の施設が一つの施設群を形成し外科専門医育成に当たる。

2. 『高知家』外科専門研修プログラムの施設群

本プログラムでは、高知大学医学部附属病院が研修基幹施設となり、四国内 23 施設 を研修連携施設として専門研修施設群を構成している。本専門研修施設群の 1 年間の NCD 登録件数は約 6,000 例 で、90 名以上 の専門研修指導医が専攻医の指導にあたる。

<専門研修基幹施設>

名称：高知大学医学部附属病院

所在地：高知県南国市岡豊町小蓮

研修可能な領域： 消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、
乳腺腫瘍外科、麻酔、救急、病理、一般外科

統括責任者： 三浦 友二郎

統括副責任者： 田村昌也、瀬尾 智、増田隆明、北川博之

<専門研修連携施設>

名称	所在地	研修可能な分野*					
		消化器 外科	心臓・血管 外科	呼吸器 外科	小児 外科	乳腺腫瘍外 科	その他
高知医療センター	高知市	○	○	○	○	○	○
高知日赤病院	高知市	○	○	○		○	○
国立高知病院	高知市	○		○	○	○	○
幡多けんみん病院	宿毛市	○				○	
近森病院	高知市	○	○			○	○
あき総合病院	安芸市	○	○(血管)			○	○
くぼかわ病院	四万十市	○				○	
野市中央病院	香南市	○					○
細木病院	高知市	○				○	○
仁淀病院	いの町	○					
JA 高知病院	高知市	○				○	○
土佐市民病院	土佐市	○	○(血管)	○		○	○
田野病院	田野町	○					○
函南病院	高知市	○				○	○
竹下病院	高知市	○					○
くろしお病院	須崎市	○					
渭南病院	土佐清水市	○			○	○	○
島津病院	高知市		○				○
国吉病院	高知市	○					
高陵病院	須崎市	○					
四国中央病院	四国中央市	○	○			○	○
愛宕病院	高知市	○					
高知生協病院	高知市	○				○	

*その他…麻酔、救急、緩和、病理など

3. 募集専攻医数

本プログラムにおける2027年度の募集専攻医数は、10名とする。

4. 習得すべき知識と技能

局所解剖学、病理学、腫瘍学など外科診療に関連する幅広い分野の知識を習得し、診断から手術を含む治療戦略の策定、術後管理、合併症対策まで、外科診療に関するすべてのマネージメントを実践する。

5. 研修スケジュール

初期臨床研修修了後3年間で、基幹施設と連携施設をローテーションし修練を行う。研修期間は3年間としているが、習得が不十分な場合は未修了とし、習得できるまで期間を延長する。一方、3年以内で技能を十分習得したと認められた専攻医に対しては、積極的にサブスペシャリティ領域の専門医取得に向けた連動型研修に移行することもできる。

また大学院博士課程への進学希望者は、臨床研修と平行して外科学に関する研究を開始することができる。本プログラムの基幹病院である高知大学医学部附属の大学医局への入局についても専攻医の希望に応じる。

<年次ごとの到達目標と専門研修計画>

1年目	<ul style="list-style-type: none">➤ 初期臨床研修で習得した基本的診療能力・態度を実践する。➤ 臨床経験および症例検討会、抄読会、セミナーへの参加などを通じて、外科の基本知識と技能を習得する。➤ e-learning、書籍、論文などによる自主学習を行う。
2年目	<ul style="list-style-type: none">➤ 臨床経験の積み重ね、セミナー等への参加、継続的な自己学習を通じて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うと共に、より専門的な専門知識・技能を習得する。➤ 自らテーマを持って学術活動に取り組み、学会、研究会などで主体的に発表する。
3年目	<ul style="list-style-type: none">➤ 外科の実践的知識・技能の習得により、様々な外科疾患に対応する。➤ 後進の指導にも参画する。➤ カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャリティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進める。➤ 地域医療において外科専門医としての活躍するために、新しい診察技術(携帯超音波など)を活用した地域での医療実践技術を習得する。➤ 地域での病診連携を円滑に進めるための技術を習得する。

〈ローテーションモデル〉：各専攻医の希望に応じて、最適なローテーションを形成する高知大学を基幹施設、県内の High volume center を連携中核施設として、サブスペシャリティーや地域枠との連動を見据えた自由な組み合わせで研修を行うことができる。

- 中央地域：高知大学、高知医療センター、近森病院、高知赤十字病院、国立高知病院を中核施設とする。
- 西部地域：高知県立幡多けんみん病院を地域中核施設とする。
- 東部地域：高知県立あき総合病院を地域中核施設とする。

以下に、基本コースおよび地域枠の義務を要する医師のためのコースそれぞれにおける、さまざまなローテーション例を示す。

基本コース

例 1：連携中核施設で 2 年間研修後、基幹施設で 1 年間研修。

年次	所属施設
1 年目	近森病院（消化器）
2 年目	近森病院（消化器/心臓・血管）
3 年目	高知大学（乳腺腫瘍/小児・呼吸器/心臓・血管）

例 2：基幹施設で 1 年間研修後、連携中核施設で 2 年間研修。

年次	所属施設
1 年目	高知大学（消化器/小児/心臓・血管/呼吸器）
2 年目	高知赤十字病院（消化器/呼吸器）
3 年目	高知赤十字病院（消化器/乳腺・内分泌）

例 3：連携中核施設で 1 年 6 か月、基幹施設で 6 か月、地域中核施設で 1 年研修。

年次	所属施設
1 年目	高知医療センター（消化器/呼吸器/乳腺・内分泌/小児）
2 年目	高知医療センター / 高知大学（消化器/心臓・血管）
3 年目	幡多けんみん病院（消化器/呼吸器/乳腺・内分泌/小児）

例 4：基幹施設と連携中核施設を 1 年ごとに研修。

年次	所属施設
1 年目	高知大学（乳腺腫瘍/小児/心臓・血管/呼吸器）
2 年目	高知医療センター（消化器）
3 年目	国立高知病院（消化器/呼吸器）

例 5：連携中核施設で 2 年 6 か月研修後、基幹施設で 6 か月研修。

年次	所属施設
1年目	高知赤十字病院（消化器/呼吸器/乳腺・内分泌/小児）
2年目	高知赤十字病院（消化器/呼吸器/乳腺・内分泌/小児）
3年目	高知赤十字病院（心臓・血管） / 高知大学（消化器/心臓・血管/呼吸器）

地域枠対応コース：地域中核施設を重点的に研修する。

例6：基幹施設を1年研修後、地域連携中核施設で2年研修。

年次	所属施設
1年目	高知大学（消化器/乳腺腫瘍/小児/心臓・血管/呼吸器）
2年目	幡多けんみん病院（消化器/乳腺・内分泌/小児）
3年目	幡多けんみん病院（消化器/乳腺・内分泌/小児）

例7：基幹施設を6か月、連携中核施設を6か月研修後、地域連携中核施設で2年研修。

年次	所属施設
1年目	高知大学（心臓・血管/呼吸器） / 高知医療センター（消化器/呼吸器）
2年目	あき総合病院（消化器/乳腺・内分泌）
3年目	幡多けんみん病院（消化器/乳腺・内分泌/小児）

例8：連携中核施設を2年6か月、基幹病院を6か月研修。4年目以降地域中核病院。

年次	所属施設
1年目	高知医療センター（消化器/呼吸器）
2年目	高知医療センター（乳腺・内分泌/小児） / 高知大学（心臓・血管）
3年目	高知医療センター（消化器/呼吸器）
4年目～	野市中央病院、土佐市民病院、あき総合病院など

※ 以下の場合、個別相談の上で各専攻医に最適なローテーションモデルを決定する。

- ✓ 心臓血管外科、呼吸器外科などサブスペシャリティの修練可能な施設が限られている場合
- ✓ 奨学貸付金等制度などの償還期間、勤務場所の制約がある場合
- ✓ 比較的早期に大学院、留学などの希望がある場合
- ✓ 妊娠・出産・育児などに関する不安がある場合

<研修の代表的な週間スケジュール>

●基幹施設（高知大学病院例）

心臓血管外科					
	月	火	水	木	金
午前	8:00 病棟回診 8:30 手術	8:00 病棟回診 9:00 外来	8:00 病棟回診 8:30 手術	7:45 病棟回診 9:00 外来	8:00 CVC 8:30 手術
午後	手術（開心術）		手術（開心術）		手術（ステントグラフト）
夕方					
呼吸器外科					
	月	火	水	木	金
午前	手術	術前後カンファレンス 病棟全体回診 外来 気管支鏡検査	手術	外来	外来
午後	手術		手術		
夕方				呼吸器カンファレンス（隔週）	
消化器外科					
	月	火	水	木	金
8:00					
8:30	カンファレンス		カンファレンス		カンファレンス
午前	病棟回診、外来、検査、手術	病棟回診、手術	病棟回診、外来、検査	病棟回診、手術	病棟回診、外来、検査、手術
午後	手術	手術	手術	手術	手術
夕方		消化管検討会	胆膵検討会 肝臓検討会		NST 検討会

小児外科					
	月	火	水	木	金
8:30	カンファレンス		カンファレンス		カンファレンス
午前	手術	外来	手術	外来	外来
午後	研究	外来	研究	外来	研究
夕方	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診	病棟回診
乳腺外科					
	月	火	水	木	金
8:30	カンファレンス		抄読会		カンファレンス(8:00)
午前	外来	手術	外来	手術	外来
午後	外来	病棟カンファレンス 回診	外来	手術	外来

●連携施設（近森病院・外科）

	月	火	水	木	金
8:00			術前カンファレンス		
8:30	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス
午前	回診、手術	回診、手術 NST カンファレンス	回診、手術	回診、手術	回診、手術
午後	手術	手術		手術	手術

●連携施設（高知赤十字病院・外科）

	月	火	水	木	金
朝	呼吸器外科カンファレンス	病院ミーティング	消化器カンファレンス	術前カンファレンス	第1・3週 術後カンファレンス 第2・4週 呼吸器カンファレンス
午前	手術・外来	手術・外来	手術・外来	回診 手術・外来	手術・外来
午後	手術	手術	手術	手術	手術
夕方	内分泌カンファレンス			内分泌カンファレンス	

●連携施設（高知県立あき総合病院・外科）

	月	火	水	木	金
午前	外来、手術 病棟回診	外来、 病棟回診	外来	外来、 病棟回診	外来
午後	手術	検査	手術	検査	手術
夕				画像症例検討会	

●連携施設（高知医療センター）

1. 消化器外科・一般外科

	月	火	水	木	金
早朝		隔週7:30- 腹腔鏡下胃切除 ビデオ勉強会	術後カンファレンス	7:40- 抄読会	隔週7:30- 食道手術 ビデオ勉強会
	手術	外来	手術	外来	外来
	手術	手術	手術	手術	手術
夕刻	17:45- 勉強会、消化 管術前カンファ レンス	18:30 キャンサーボ ード	15:00- ICTラウンド	18:00- 肝胆膵カンファ レンス	

2. 心臓血管外科

	月	火	水	木	金
早朝	ICUミーティング				
午前	9:00～ 手術	専門外来 術後ICU処置	9:00～ 手術	9:00～ 手術	9:00～ TAVI・ステント グラフト)
午後		13:00～ 血管内治療	16:00～ 術前検討会		
夕刻	循環器合同 カンファレンス		TAVIカンフ アレンス		

毎朝8:00よりICUにてミーティングを行う

毎週水曜午後4:00～ 術前カンファレンスを行う

3. 呼吸器外科

	月	火	水	木	金
午前	(第1週)8:30 オリエンテーション 病棟	病棟	手術	病棟	手術
午後	12:45 回診 呼吸器外科カンファ レンス 臨時で気管支鏡また は病棟 16:00 呼吸器合同 カンファレンス	病棟 17:00 抄読会	手術	病棟 13:00 気管支鏡	手術

※病棟業務は、受持患者の回診、処置など。新規入院はその日の担当Drとともに担当する。

※カンファレンスは、7B病棟で行う。

4. 乳腺甲状腺外科

	月	火	水	木	金
午前	外来/手術	手術	術後カンファレ ンス 病棟	抄読会 手術	術前カンファ レンス 外来
午後	外来/手術	手術	病棟	手術	外来

5. 小児外科

	月	火	水	木	金
早朝		抄読会			
午前	週間カンファ レンス、検査	手術	外来	手術	外来
午後	外来	検査	外来	手術	外来/検査
夕刻			術前カンファ レンス		

●連携施設（幡多けんみん病院）

	月	火	水	木	金
8:00-8:30 手術カンファレンス					○
8:30-9:00 朝カンファレンス	○	○	○	○	○
8:30-9:00 病棟カンファレンス					○
9:00-11:00 病棟業務、回診	○	○	○	○	○
9:00- 外来業務	○	○	○	○	○
11:00- 手術	○	○	○	○	○
18:30- 病理合同カンファレンス		○			

<研修プログラムに関連した全体行事の年間スケジュール>

4月	外科専門研修開始。専攻医および指導医への提出用資料の配布。 日本外科学会参加（発表）
5月	研修修了者：専門医認定審査申請・提出
5月	定例プログラム管理委員会による研修内容の確認
8月	研修修了者：専門医認定審査（筆記試験）
11月	臨床外科学会参加（発表）
11月	定例プログラム委員会による研修内容の確認
2月	専攻医：研修目標達成度評価報告用紙、経験症例数報告用紙、研修プログラム評価報告用紙の作成（3月提出） 指導医・指導責任者：指導実績報告用紙の作成（3月提出）
3月	研修プログラム管理委員会開催

6. 知識・技能習得のための企画

医師は、日進月歩で発展する医学・医療の知識をアップデートするために、生涯にわたって研鑽、自己学習する必要がある。その一助となるように、研修セミナーや講習会を通じて、先進的医療、医療倫理、医療安全、院内感染対策などについての学習の機会が用意されている。また研修期間中に、日本外科学会定期学術集会への参加や発表を行う。

- 症例検討会

基幹施設および連携施設それぞれで定期開催する。検討会には、医師および関連する他職種のスタッフが参加し、医療全般にわたっての治療方針を検討する。専攻医は積極的に質問や意見交換を行い、治療の原則を学ぶ。

- 医療安全講習会、院内感染対策講習会

基幹施設では定期的に開催している。それぞれ2回以上受講する。

- Cardiovascular conference (CVC) (高知大学医学部附属病院)

心臓血管外科は、循環器内科医やコメディカル（臨床工学技士、臨床検査技師など）と定期的に CVC を開催し、術前症例や術後の検討を行っている。CT や心エコーなど術前評価の所見と術中所見を対比することにより、検査技師の評価能力向上に役立てるとともに、専攻医にとっても自身が経験した症例の数倍以上の所見を学ぶ機会となる。

- 高知肺癌研究会（毎月第3木曜日開催）（高知大学医学部附属病院）

呼吸器外科が事務局となり月例で開催している。呼吸器外科・呼吸器内科・放射線科・病理診断部の4部門合同で、胸部悪性腫瘍症例に関する症例提示・治療法の検討を行う。院内および院外から医師や細胞検査士など多職種が参加する。実症例について臨床所見、画像所見、手術による肉眼所見、病理所見のそれぞれをエキスパートが解説し、症例の問題点・治療方針について討論する。外科専攻医には、手術適応・手術所見、術後経過を中心に、動画を含む症例提示を担当してもらい、プレゼンテーション能力の醸成を目指す。

- Cancer Board

複数の臓器に及ぶ進行・再発例や重症の併存疾患を有する症例、標準治療が存在しない稀な疾患などの治療方針を、多職種で検討する合同カンファレンスを、毎月開催している。関連診療科、病理部、放射線科、緩和、看護スタッフなどが参加し、がん診療についての知識・考察を深める。

- Clinico-Pathological Conference (CPC) 臨床病理検討会

臨床医と病理診断を行う病理医が集まり、稀な疾患や診断・治療が困難であった症例を対象にして、症例検討を行う。画像診断、血液検査とともに、病理学的な所見を踏まえて、診断や治療方針が適切であったか医学的立場、医療的立場から幅広い領域（多職種）で検討を深める。

- Morbidity & Mortality conference (M & M conference)

不幸にも重篤な合併症、あるいは死亡された症例を振り返る機会を定期的に設けている。経験した事例を共有し、今後の改善点を含め討論し、診療成績の向上をはかるとともに医療安全への意識も高める。

- 基幹施設と連携施設による症例検討会

各施設の専攻医や若手専門医による研修発表会を年に1回開催し参加者からの質問を受けて討論を行う。発表内容、スライド資料の完成度、発表態度などについてフィードバックを受け、改善をしていく。

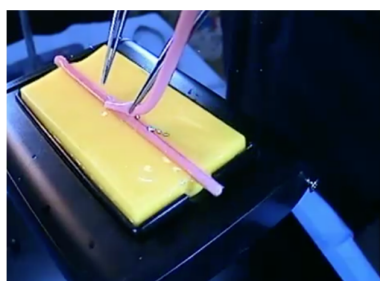
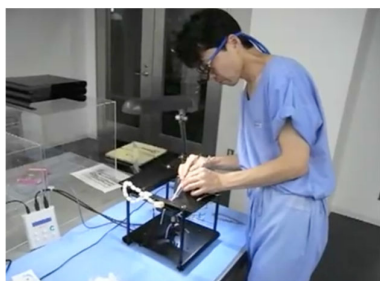
- スキルスラボ

内視鏡手術トレーニングボックスを用いた縫合結紮トレーニングや、腹腔鏡手術シミュレーター、ロボット手術シミュレーターを用いた手術トレーニングを行う。



- Youcan(ヨウカン) dry lab:冠動脈吻合トレーニング (高知大学医学部附属病院 心臓血管外科)

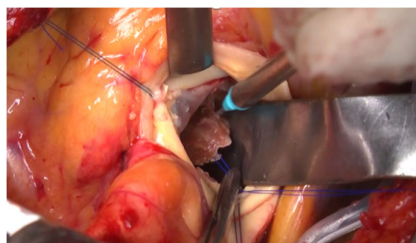
現在世界的に外科系学会全体で手術室外での手技トレーニング (off the job training) の重要性が強調されており、豊富な器材を使い空き時間に実際の手術をイメージし技術トレーニングを指導医のもと行うことができる。



- Wet Lab (高知大学医学部附属病院 心臓血管外科)
 ブタの心臓を用いて、定期的に手術解剖の勉強と実技 (冠動脈バイパス 弁置換 弁形成 基部置換など) を定期的に行うことができる。
 (※写真は自己弁温存基部置換術)



- 手術手技勉強会 (高知大学医学部附属病院 心臓血管外科)
 専攻医の段階から心臓大動脈手術に興味を持ってもらう機会を多く与え、中でも手術技術向上のため、実際の手術ビデオを供覧しながら手術場で上手くいかなかった手技や手順を上級医と専攻医の間で忌憚なく討論し、可能な限り知識と情報を共有し、技術向上の飽くなき探求を奨励している。



(※写真は閉塞性肥大型心筋症に対する中隔心筋切除術)

- Wet Lab. (高知大学医学部附属病院 呼吸器外科)

ブタの心肺ブロックに有色ゼラチンを封入し、生体の血管を再現したウエットラボモデルを教材として、外科系に不可欠な血管鞘の鋭的・鈍的剥離、リンパ節郭清などの手技を、本物の手術道具や胸腔鏡手術器具を用いて体得してもらう。



- ブタ生体手術研修 (高知大学医学部附属病院：年 1-2 回開催)

エチコンエンドサージェリーの協賛で、東京都内の専門施設に指導医・外科専門研修医のペアで出張し、ブタを用いた生体での呼吸器外科手術を施行する。自身のレベルより一段高いレベルの技能を貴重な生体モデルを使って習得する。特に、予想外の大出血などの緊急事態にも、冷静に血管確保できる手術スキルを習得する。

- ビデオクリニック (高知大学医学部附属病院 消化器外科)

年に 2-3 回、腹腔鏡下胆嚢摘出術や腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術を含む消化器外科手術のトップナイフを招き、講演いただく。また若手が手術ビデオを提示し、講師の先生にコメントをいただく。高知にしながら国内最前線の治療に触れ技術とモチベーションを高めることができる。

- マクロ解剖 (高知大学医学部附属病院)

基幹施設では、解剖の学習機会を得ることができる (不定期)。日本外科学会・日本解剖学会が発表する「臨床医学の教育および研究における死体解剖のガイドライン」に沿った条件下で十分に倫理的側面に配慮した上で、生体では直視が困難な部位の脈管の走行など身体構造を学ぶ。

- 超音波検査の外科領域での積極活用 (高知大学医学部附属病院)

周術期管理のみならず、緊急症例の全身評価や地域医療における体内情報収集に必要

となる超音波検査（心エコー、腹部エコー、体表エコー）を聴診器なみに使いこなせるようになることをめざす。病棟のポケットサイズエコーやポータブルエコー、OR や ICU のハイエンドエコー装置を用いて、頻回にベッドサイドでのエコー評価の経験を積み、迅速かつ簡便に超音波所見を取れる技術を習得する。さらに、中央検査部に常設しているエコーシミュレータを用いて、心臓および腹部エコーの正常像に加え病態のエコー診断を修練する。

7. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

本プログラムでは、基幹施設と地域の連携施設群をローテーションすることにより、多彩で偏りの少ない研修を行うことが可能であり、専攻医は専門医取得に必要な基本的な経験を積む機会とともに、幅広い知識と技術を習得することが可能となる。

各地域の中核となる総合病院では、サブスペシャリティに至る幅広い外科症例を経験でき、大学病院では稀な疾患や治療困難症例も経験できる。一方の地域の連携病院では、外傷に対する外科処置をはじめ、地域に特徴的な外科診療の機会が豊富で、外科医としての基本的な力の強化につながる。高度な専門知識と技術・豊かな人間性を兼ね備えた外科専門医を高知県内で育成することを理念とする本プログラムでは、複数施設での研修を推奨し、3年間の研修を通じて、手術手技だけではなく様々な経験を積んでいただくことを願っている。

地域の連携病院では、外科診療における common disease を多数経験すると同時に、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などについて学ぶことができる。これらは、長年にわたって地域住民と密に関わり、患者背景や医療的問題とその解決方法に熟知した医師（外科医）にしか提供できない修練内容である。そして地域の連携施設がカバーする地理的範囲には過疎地域も含まれ、病院における診療以外に、診療所での診療、在宅医療、訪問診療など、診断機器や検査手段の制限がある中での外科診療を経験することができる。このような環境下での診療は、災害時医療、救急医療にもつながる非常に重要な経験となる。また、地域医療においては、がん患者の緩和ケア、ADLの低下した患者で病院や診療所への受診も容易ではない患者に対する在宅医療を経験する機会がある。これらの経験は外科専門医として、長期的な患者目線に立ったチーム医療を進める際にとても役に立つと考えられる。

8. 専門研修の評価

専門医研修の達成度に関して、研修年度ごとに専攻医と指導医が共同して評価する。専攻医は、『専攻医評価表／実績記録』（外科学会HP）を用いて研修の実績を記載し、3か月ごとに研修プログラム管理委員会に提出し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的评价は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行う。

9. 専門研修プログラム管理委員会

基幹施設（高知大学医学部附属病院）に研修プログラム管理委員会と研修プログラム統括責任者を置き、連携施設には研修プログラム連携施設担当者と研修プログラム委員会組織を置く。

研修プログラム管理委員会は、研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、事務局代表者、外科の4つの専門分野（消化器、心臓血管、呼吸器、小児）の研修指導責

任者および連携施設担当委員などで構成される。研修プログラムの改善へ向けての会議には、専門医取得直後の若手医師代表が加わる。研修プログラム管理委員会は、専攻医および研修プログラム全般の管理、継続的改良、指導医の研修計画の立案を行う。

研修プログラム管理委員会は、中間・期末と年2回の定例会、必要に応じて臨時会を開催し、研修に偏りが出ないようにその後の研修内容を組み立てる。高知大学医学部附属病院外科にて、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

10. 専攻医の就業環境

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努める。
- 2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルスに配慮する。
- 3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従う。

11. 修了判定

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録にもとづき、知識・技能・態度が専門医試験の受験にふさわしいか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているかを、専門医認定申請年（3年目あるいはそれ以後）の3月末に、研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、統括責任者が修了判定をする。

12. 専攻医の採用と修了

採用方法

研修プログラム管理委員会が、毎年7月から説明会等を行い、外科専攻医を募集する。プログラムへの応募者は、9月30日までに、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『高知家外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出する。

申請書は

- (1) 高知大学医学部附属病院 医療人育成支援センターのHP
(<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/sotu5/>)よりダウンロード
- (2) 電話で問い合わせ(本プログラム巻末の連絡先へ)
- (3) e-mailで問い合わせ(本プログラム巻末の連絡先へ)

のいずれの方法で入手する。

10月～1月に書類選考および面接を行い、採否を決定し本人に通知する。応募者および選考結果については、高知家外科専門研修プログラム管理委員会において報告する。

研修開始届け

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を日本外科学会事務局および、外科研修委員会に提出する。

- ・氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、卒業年度
- ・履歴書（様式15-3号）
- ・初期研修修了証

修了要件：専攻医研修マニュアル参照

13. その他

外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件、その他、高知家外科専門研修プログラムに特別な記載がない事項については、外科学会のホームページより、専攻医研修マニュアルおよび外科専門研修プログラム整備基準を参照してください。

第1版作成：2016年1月20日

第2版作成：2017年5月29日

第3版作成：2020年5月1日

第4版作成：2021年5月1日

第5版作成：2022年5月31日

第6版作成：2023年8月28日

第7版作成：2024年6月1日

問い合わせ先：高知大学医学部外科学講座

〒783-8505

高知県南国市岡豊町小蓮

外科（消化器・小児外科）

TEL：088-880-2370

FAX：088-880-2371

e-mail：im31@kochi-u.ac.jp

心臓血管外科

TEL：088-880-2375

FAX：088-880-2376

e-mail：im32@kochi-u.ac.jp

呼吸器外科

TEL：088-888-0414

FAX：088-888-0421

e-mail：im84@kochi-u.ac.jp

乳腺腫瘍外科

TEL：088-888-2139

FAX：088-888-2140

e-mail：im75@kochi-u.ac.jp